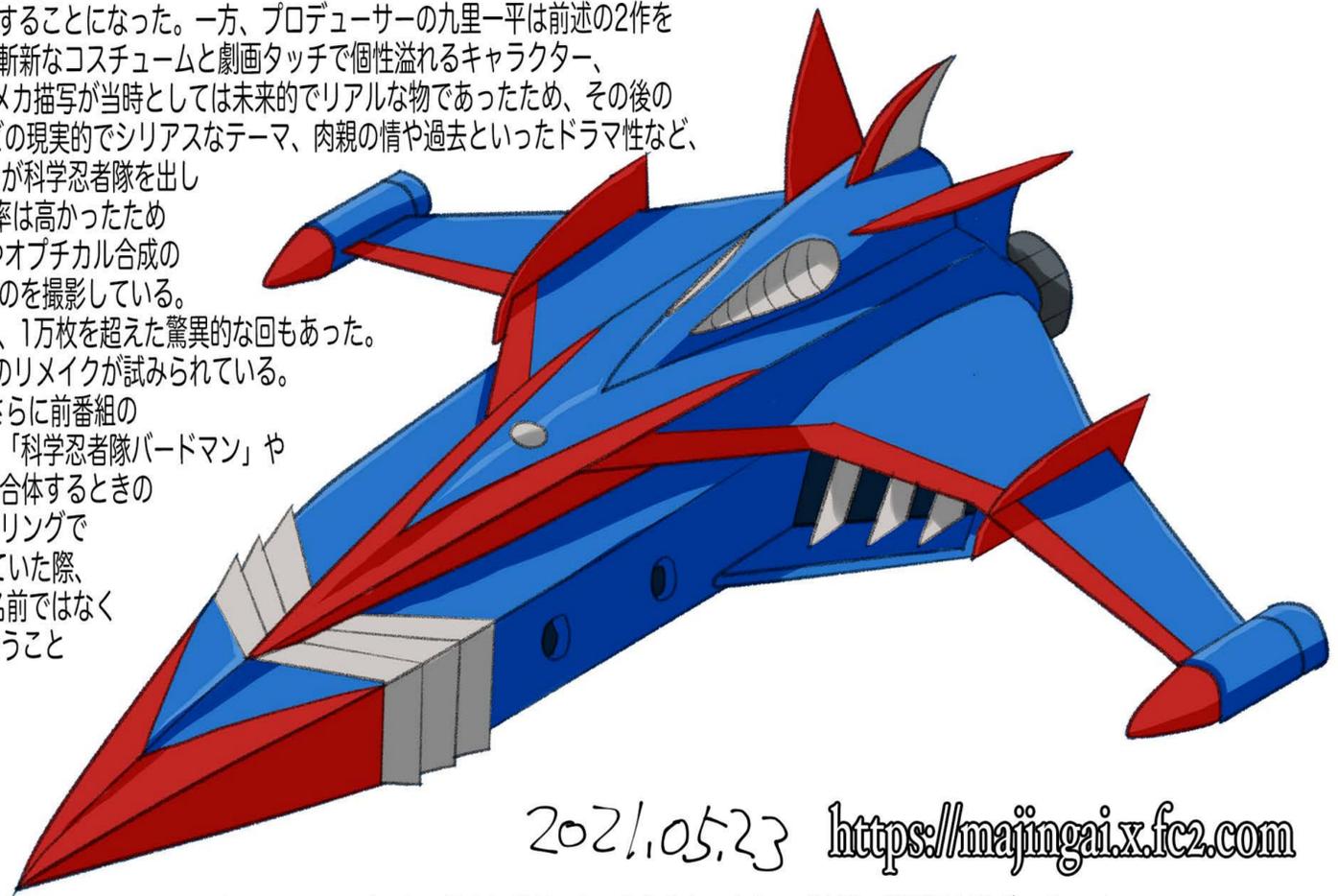


# 科学忍者隊ガッチャマン

# 1972年

【作品解説】

テレビアニメ版は1972年10月1日から1974年9月29日までフジテレビ系で毎週日曜日18時00分から18時30分に全105話が放送された。2年間の平均視聴率は約21%（タツノコプロの保存資料によると平均視聴率17.9%、最高視聴率は第53話の26.5%）。本作品の成功により、『新造人間キャシャーン』『破裏拳ポリマー』『宇宙の騎士テッカマン』といった変身ヒーローによるSFアクション物が続き、タツノコプロの一つの路線を構築した代表作である。人気や知名度の高さからその後、映画版や続編、OVAも制作された。タツノコプロ企画文芸部の鳥海尽三と陶山智によって企画が練られた。鳥海によると、『忍者部隊月光』『世界少年隊』といった吉田竜夫の漫画は特に意識した訳ではないというが、結果的に少年少女によるチームが敵と戦う構成は踏襲することになった。一方、プロデューサーの九里一平は前述の2作をベースにしたとし、「太平洋戦争が舞台の『忍者部隊月光』では夢がないので科学忍者とした」と述べている。吉田竜夫と九里一平のデザインによる斬新なコスチュームと劇画タッチで個性溢れるキャラクター、SF作家小隅黎（柴野拓美）によるSF考証、さらには中村光毅のデザインしたメカニックとそれを演出した本作が監督デビューになる鳥海永行によるメカ描写が当時としては未来的でリアルな物であったため、その後のSF・ヒーローアニメの方向性に多大な影響を与えている。当初は巨大メカと戦う低年齢向けのアクション物として開始したが、公害、科学、戦争などの現実的でシリアスなテーマ、肉親の情や過去といったドラマ性など、子供向けアニメの枠に収まらないエピソードが人気を呼んだ。PCB、原子力船など当時の社会問題を素材に用いた回もあるほか、敵組織キャラクターが科学忍者隊を出し抜き勝利を収めたり、作戦そのものは失敗するも1つの都市を壊滅させたりなど、主人公側の敗北という通常なら考えられない展開も多かった。視聴率は高かったため当初1年間の放送予定が2年に延長され、タツノコプロを代表する作品となった。当時のタツノコプロには実写用カメラが装備されており、実写映像やオプチカル合成のシーンも随所に採用されている。オープニング冒頭に登場する地球は、質感を出すため調理器具のボウルを紙粘土で覆い、その上に海や雲を描いたものを撮影している。発案は撮影の細野正、描いたのは美術設定の中村光毅とされる。連続テレビアニメでありながら、1話あたりのセル画枚数は平均5千から6千枚に及び、1万枚を超えた驚異的な回もあった。第1話「ガッチャマン対タートル・キング」は特に秀逸とされ、怪獣映画のスケール感があると評価された。後のオリジナルビデオアニメ版でこの回のリメイクが試みられている。作画面では同じく劇画タッチだった『アニメンタリー 決断』から引き続き、作画監督の宮本貞雄をはじめ、須田正己、湖川友謙、加藤茂らが参加。さらに前番組の『いなかっぺ大将』から二宮常雄らが加わり『決断』での経験も活かされ、リアルタッチの作画でタツノコプロの名を高めた。本作の仮タイトルには「科学忍者隊バードマン」や「科学忍者隊シャドウナイツ」があったが、広告代理店の読売広告社の松山貫之専務による発案により『ガッチャマン』に決定松山によると、メカが合体するときの「ガッチャン」という擬音から発想したというが、「まるでギャグものだ」とタツノコプロのスタッフ側からは不評であったという。何となくフィーリングでつけたため、「ガッツとマンでガッチャマン」と説明される[こともあった。別説では吉田竜夫ら主要スタッフが企画会議という名目の飲み会を行っていた際、誰からともなく「ガッチャマン!」と叫び、それがそのまま決まってしまったというのがある。なお作中の設定では、「ガッチャマン」とは、組織の名前ではなく科学忍者隊のリーダーの称号である。正確に呼ぶならば、リーダーの大鷲の健以外の四人は「ガッチャマン」ではなく、単に科学忍者隊の隊員、ということになる（実際、エンディングのキャスト紹介においては、健のみ「ガッチャマン」という役名になっている）]。敵方の「ギャクチャー」は過去のタツノコプロ作品『宇宙エース』に登場するSF作家の広瀬正が名付けた敵キャラクターの名前を再利用したもの。山猫からつけられた「ベルク・カツェ（独：Berg-Katze）」などというネーミングともども、インパクトの強さを狙って、スマートすぎない名前にした、との関係者との回想がある。また、熟慮の上キャスティングされた声優陣も好評で、南部博士役の大平透は、当時タツノコプロ作品では『ハクション大魔王』などギャグアニメの印象が強い声優だったが、本作ではシリアスな役柄にもかかわらず、あえて起用に踏み切り成功した。ベルク・カツェのキャラクターは最初から細かく設定されていたわけではなく、カツェを演じた俳優の寺島幹夫の独特な演技にスタッフが影響を受け、後から肉付けされた部分が多いという。ガッチャマンはタツノコプロを代表する作品となったが、企画の鳥海尽三は設定について「（後から思うと）あまりにもずさんで荒唐無稽だった」と後悔しており、『小説・科学忍者隊ガッチャマン』（1989年発表）を執筆する動機になった。



【ゴッドフェニックス】

G-1号機からG-5号機の5台のマシンが合体した大型偵察・攻撃機。塗装は青地をベースに、機首・翼端は赤。メインパイロットはみみずくの竜。最高速度は飛行時マッハ5・水中潜航時40ノット。耐熱温度は3000℃。耐えられる圧力は200気圧ということになっているが、第92話では水深2500メートルに到達したこともある。また、第9話で一度だけ宇宙へ脚を伸ばしたことがある。機体下部にVTOLノズルがあり、空中停止や垂直離着陸も可能。機体上面に開閉式の強化素材製の透明ドームがあり、忍者隊は主にここから出入りする。コクピットは機体のほぼ中央(先の透明ドームの下部)にあり、その構造上キャノピーはなく、外部からの視覚情報は専らビデオカメラからモニターに投影された映像を頼りに飛行・航行する。武装は機体上面に内蔵された単装ランチャーから発射するミサイル「バードミサイル」。被弾時には誘爆防止のため、ランチャーのみの投棄が可能。二号機が新造後の第67話からはこれに換えて、バードミサイルを強化・大型化した超バードミサイルの大型ランチャーを機体下面に二基装備した[注 36]。これは一種の貫通ミサイルであり、着弾時撃発だけでなく、時限信管を用いて敵の装甲を突き破り着弾した後に遅延起爆させることも可能となった。必殺技は「科学忍法・火の鳥」。だが、これは必殺の技であると同時に搭乗員が高熱に晒され、機体も空中分解するかもしれないといった危険性を孕んだ諸刃の剣である。これは文字通りの「火の鳥」状態となり、敵メカ鉄獣の胴を体当たりで撃ち抜く戦法である。バリエーションとして、火の鳥を発動させた後、各Gメカの合体を解除し、各機が炎に包まれた状態で体当たりを行う「火の鳥・影分身」がある。搭載パイロードのポテンシャルは相当に高く、第42話では外装をギャクチャーの輸送機風に偽装した際、200名余りもの囚人を収容したこともある。物語の開始当初は、忍者隊はギャクチャーの本部発見が最優先事項とされ、任務中の積極的な戦闘は固く禁じられていたため、本機の全武装には、G-1 - 4号までの全てがG-5号と合体し、忍者隊が全員本機に搭乗し、なおかつ南部の許可が必要という厳しい使用制限が課せられていた。これを象徴するかのようにバードミサイルの発射ボタンには、普段は乱用防止のためのスライド式透明カバーが取り付けられている。ただし、全Gメカが合体してさえいればバードミサイルの発射自体は可能であるため、劇中ではこのカバーを叩き割り、無理矢理発射ボタンを押そうとする場面が多々見られた[注 40]。さらに緊急措置としてG-1号が未合体の際に、ジュンのヨーヨーで配線を短絡させてバードミサイルを放ったこともある。しかしギャクチャーの破壊活動は次第に激しさを増し、攻撃開始の判断が遅れることで生じる都市への被害や忍者隊自体の危険も大きくなっていったため、これを機に忍者隊の判断で攻撃を行えるようになった。だが、その後もギャクチャーの鉄獣メカは強化し続け、本機が撃退、あるいは撃墜されても度々再稼働するよう進化してきた。そして第67話『必殺! ガッチャマンファイヤー』において、合体鉄獣「クラゲメカ」の猛攻により、ついに本機は全Gメカと共に完全に破壊された。この事態を重く見た南部は、本機の二号機、及び各Gメカの再建造の際、各機に新武装の追加・装甲強化を改めて施し、結果、本機はもとより各Gメカさえも、単体で立派に鉄獣メカと戦えるだけの戦闘能力を獲得することとなる。このように、「正義の味方が操るメカ」としては意外にも弱い部類に入るが、メンバーの勇氣と機転、南部博士による一時的強化（対放射線用特殊皮膜の塗布など）で数々のピンチを乗り越えていく。なお、続編『ガッチャマンII』ではニューゴッドフェニックスに役目を譲って退役し、南部博士の別荘に保管されていた。だが『II』第47話ではパンドラ博士の操縦で再度登場し、新旧ゴッドフェニックスによるダブル火の鳥を披露している。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

# 科学忍者隊ガッチャマン

<https://majimgai.x.fc2.com>

# 1977年

【登場人物】

ガッチャマン—大鷲の健 / G-1号 声 - 森功至

本作の主人公。18歳。本名・鷲尾健。科学忍者隊のリーダー。ガッチャマンとは「科学忍者隊の5人」を指すのではなく、科学忍者隊のリーダーである彼の称号である。身長180センチメートル、体重60キログラム。普段はテストパイロットだが、小荷物航空便の仕事もしている。自宅は父の残した小飛行場の事務所。変身後の武器は鳥の形をしたブーメラン。一般的には「バードラン」という名前で呼ばれているが、これは武器の名称ではなく、変身時の「バード ゴー!」同様にブーメランを投げる際に言う掛け声である[。なお、本編中では本名は必要最小限のみしか出てこず、専ら名のみ、もしくは通り名で呼ばれている。普段はあまり金がないらしく、ジュンの経営するスナックでしばしばツケで飲み食いをし、甚平に支払いを求められている。ジュンに恋愛対象としての好意を持たれているが、科学忍者隊の任務を最優先する気持ちと、色恋沙汰にまるっきり疎いため、そのことに全く気がついていない。リーダー然とした冷静沈着な性格であるが、時に感情に流されて危機に陥る若者らしい面もある。父親である鷲尾健太郎が死亡した際にはギャラクターに激しい憎悪を抱き独断専行に走った。また、第61話や2作目『II』（第14話）で同様にレッドインパルス の偽者のために冷静さを欠いたことが災いしてギャラクターの罠に嵌ってしまう。11歳のとき、母をなくしている。

コンドルのジョー / G-2号 声 - 佐々木功

18歳。本名・ジョージ浅倉。日系イタリア人。BC島出身。身長185センチメートル、体重60キログラム。科学忍者隊のサブリーダー。普段はレーサーで、キャンピングトレーラーで寝泊まりをしている。メンバーの中で一番大人びていて、無鉄砲で気障な皮肉屋。そのため、周囲から誤解を受けやすい。健と衝突が絶えないが、お互いの力は認め合っている。また、皮肉屋といっても性格は明るく、孤高の一匹狼のわりには人付き合いはよい。ギャラクター幹部の子として生まれるが、組織を裏切った彼らはギャラクターに殺害され、ジョーもデブルスターのバラ爆弾で被弾。BC島へ避暑に来ていた南部に助けられ、死を偽装されて一命を取り留めたものの、当時の記憶を失くしていた。変身後の武器は羽根手裏剣と、ワイヤー弾、信号弾など様々な種類の弾を撃つことができる拳銃、エアガン。なお、本作においては羽根手裏剣は他のキャラクターも使っており、必ずしも彼専用の武器というわけではない。アイキャッチの「ガッチャマン!」と言うタイトルコールは佐々木が担当しており、次作『II』以降もアイキャッチで使用されている。第20話の攻撃で子犬を救った時に頭へ破片を受ける。これが伏線となって第98話でめまいが発症。続く第99話で頭痛で竜巻ファイター失敗と症状が悪化。ついに第103話で「残り一週間か、10日の命」と医者に宣告されてしまい、死期を悟ったジョーは、単身ギャラクター本部へと向かって行く。

白鳥（しらとり）のジュン / G-3号 声 - 杉山佳寿子

16歳。苗字は作品中では明らかにされていない。アメリカ人と日本人のハーフ。身長160センチメートル、体重45キログラム。普段はユートランドでゴーゴー喫茶・スナックJを経営している美少女。だが、料理は苦手[なので、専ら甚平が担当。このスナックJは、ジュンと甚平の家であると同時に、忍者隊メンバーの溜り場兼情報交換の場になっている。孤児院出身だが、自分の生い立ちをある程度覚えている。変身後の武器は刃が仕込まれたヨーヨー。爆弾のプロでもある。バードスタイルは他のメンバーと違い、ピンク色で上腕部と太股を大胆に露出したノースリーブのミニスカワンピースに白いサイハイブーツ姿で、白兵戦では得意なキック技で惜しげもなく白い下着を披露したため、後年発行されたムックではその特集すら組まれていた。健に人知れず恋愛感情を持っていて、甚平には度々そのことだからかわれている。しかし、なかなか健本人にはそれが伝わらず、そのことで悩んでいたりもする。

燕（つばくろ）の甚平 / G-4号 声 - 塩屋翼

推定年齢11歳。身長120センチメートル、体重30キログラム。一人でジュピター山をさまよっている時ジュンに発見された孤児で、ジュンと同じ孤児院で育った。そのため、ジュンを姉のように慕う。健を常に「兄貴」と呼び、ジュンを「お姉ちゃん」呼んでいる。ジュンと同じく苗字は不明。スナックJのウェイター兼料理人で、普段もジュンと一緒に暮らしている。第1話などでは伊賀忍者一族の末裔と自称している。変身後の武器はアメリカンクラッカー。打撃を加えたり、敵に投げつけて動きを封じたりする。未成年だがバギーを運転しており、劇中では「特別な運転免許証を持っている」と語っていた（第85話）。担当声優の塩屋はこの頃はまだ子役声優で、自身もまさに変声期に差し掛かった時期であったため、第1話と最終話では、声色が変わっている。登場人物（竜）に声変わりを指摘される場面もある（第87話）。本当の誕生日は不明だが、ジュンと出会った日を誕生日と決めていて、「甚平」という名前もジュンが付けたという設定。なお「甚平」という名の由来は企画の鳥海尽三いわく「ぼくのおじさんの名前」とのことである。

みみずくの竜 / G-5号 声 - 兼本新吾

17歳。本名・中西竜。身長170センチメートル、体重80キログラム。日本の東北地方の漁師の息子。普段はヨットハーバーの管理人。のんびりしているが海で鍛えた怪力を持ち、水中戦や船の操船で活躍する。ゴッドフェニックスの機長も務める。メンバーの中で唯一明確に肉親（両親と弟）が健在である（父の声 - 辻村真人、弟誠二の声 - 野沢雅子）。そのため、南部博士の配慮で戦闘に直接加わることは少なく、G-5号で待機していることが多いせいで目立たない。本人も留守番役に文句を言う描写が多い。しかし、一度戦闘に参加させようとした際はG-5号で居眠りをしていたため、そのことに落ち込みチームを辞めようとした。ジョーと同様のエアガンを持っているが、ほとんど使わず、白兵戦時は専ら怪力一本で戦う。」

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

2021.05.23



# 科学忍者隊ガッチャマン

【サブタイトル】	【脚本】	【演出】
1話 ガッチャマン対タートル・キング	鳥海尽三	鳥海永行
2話 魔のお化け空母現わる	陶山智	鳥海永行
3話 嵐を呼ぶミイラ巨人	酒井あきよし	鳥海永行
4話 鉄獣メカデゴンに復しゅうだ	酒井あきよし	西牧秀雄
5話 地獄の幽霊艦隊	松浦健郎	案納正美
6話 ミニ・ロボット大作戦	曾田博久	
7話 ギャラクターの大航空ショー	永田俊夫	酒井あきよし
	松浦健郎	西牧秀雄
8話 三日月サンゴ礁の秘密	曾田博久	
9話 月よりの悪魔	鳥海尽三	鳥海永行
	松浦健郎	鳥海永行
10話 地底怪獣大戦争	曾田博久	西牧秀雄
	鳥海永行	西牧秀雄
11話 謎のレッド・インパルス	曾田博久	鳥海永行
12話 大喰い怪獣イブクロン	鳥海尽三	鳥海永行
13話 謎の赤い砂	永田俊夫	西牧秀雄
	松浦健郎	黒川文男
	曾田博久	
14話 恐怖のアイス・キャンダー	陶山智	大村節夫
15話 恐怖のクラゲ レンズ	松浦健郎	笹川ひろし
	曾田博久	
16話 無敵マシン メカニカ	松浦健郎	黒川文男
	曾田博久	
17話 昆虫大作戦	陣野修	西牧秀雄
18話 復讐! くじら作戦	松浦健郎	鳥海永行
	曾田博久	
19話 地獄のスピード・レース	陶山智	黒川文男
20話 科学忍者隊危機一発	酒井あきよし	大村節夫
21話 総裁Xは誰れだ	松浦健郎	西牧秀雄
	曾田博久	
22話 火の鳥対火喰い竜	陶山智	鳥海永行
	鳥海永行	
23話 大暴れ メカ・ボール	鳥海尽三	山田勝久
24話 闇に笑うネオン巨人	西牧秀雄	
25話 地獄の帝王マグマ巨人	松浦健郎	黒川文男
	曾田博久	
26話 よみがえれゴッドフェニックス	永田俊夫	棚橋一徳
27話 ギャラクターの魔女レーザー	永田俊夫	大村節夫
28話 見えない悪魔	梅谷卓司	鳥海永行
29話 魔人ギャラックX 久	保田圭司	西牧秀雄
30話 ギロチン鉄獣カミソラール	梅谷卓司	案納正美
31話 南部博士暗殺計画	永田俊夫	鳥海永行
32話 ゲゾラ大作戦 (前編)	鳥海尽三	案納正美
33話 ゲゾラ大作戦 (後編)	鳥海尽三	西牧秀雄
34話 魔のオーロラ作戦	梅谷卓司	西牧秀雄
35話 燃える砂漠の炎	永田俊夫	鳥海永行
36話 ちびっ子ガッチャマン	松浦健郎	案納正美
	曾田博久	

【サブタイトル】	【脚本】	【演出】
37話 電子怪獣レンジラー	落合茂一	鳥海永行
38話 謎のメカニックジャングル	松浦健郎	西牧秀雄
	曾田博久	
39話 人喰い花ジゴキラー (前編)	梅谷卓司	鳥海永行
40話 人喰い花ジゴキラー (後編)	梅谷卓司	鳥海永行
41話 殺人ミュージック	松浦健郎	西牧秀雄
	曾田博久	
42話 大脱走トリック作戦	松浦健郎	案納正美
	曾田博久	
43話 悪に消えたロマンス	徳増正彦	黒川文男
44話 ギャラクターの挑戦状	鳥海尽三	案納正美
	陶山智	
45話 夜霧のアンカ忍者隊	鳥海尽三	西牧秀雄
46話 死の谷のガッチャマン	陶山智	鳥海永行
47話 悪魔のエアー・ライン	梅谷卓司	黒川文男
48話 カメラ鉄獣シャッターキラー	梅谷卓司	西牧秀雄
49話 恐怖のメカドクガ	陶山智	案納正美
50話 白骨恐竜トラコドン	陶山智	鳥海永行
51話 回転鉄獣キャタローラー	鳥海尽三	西牧秀雄
52話 レッドインパルスの秘密	鳥海永行	鳥海永行
53話 さらばレッドインパルス	陶山智	鳥海永行
	鳥海尽三	
54話 怒りに燃えたガッチャマン	酒井あきよし	案納正美
55話 決死のミニ潜水艦	永田俊夫	黒川文男
56話 うらみのバードミサイル	徳増正彦	西牧秀雄
57話 魔の白い海	松浦健郎	鳥海永行
	曾田博久	
58話 地獄のメカブッタ	松下幹夫	鳥海永行
59話 怪獣メカ工場の秘密	鳥海尽三	黒川文男
60話 科学忍者隊G-6号	酒井あきよし	西牧秀雄
61話 幻のレッドインパルス	永田俊夫	案納正美
62話 雪魔王ブリザダー	久保田圭司	西牧秀雄
63話 皆殺しのメカ魔球	多村映美	西牧秀雄
64話 死のクリスマスプレゼント	松下幹夫	案納正美
65話 合成鉄獣スーパー・ベム	松浦健郎	西牧秀雄
	曾田博久	
66話 悪魔のファッションショー	鳥海尽三	黒川文男
67話 必殺! ガッチャマンファイヤー	陶山智	鳥海永行
68話 粒子鉄獣マイクロサターン	鳥海永行	鳥海永行
69話 月下の墓場	鳥海尽三	案納正美
70話 合体! 死神少女	多村映美	案納正美
71話 不死身の総裁X	陶山智	鳥海永行
	鳥海尽三	
72話 大群! ミニ鉄獣の襲来	久保田圭司	黒川文男
73話 カツェを追撃せよ!	久保田圭司	西牧秀雄
74話 パードスタイルの秘密	久保田圭司	西牧秀雄
75話 海魔王ジャンボシャコラ	久保田圭司	案納正美

【サブタイトル】	【脚本】	【演出】
76話 あばかれたプレスレット	陶山智	鳥海永行
77話 成功したベルクカツェ	酒井あきよし	西牧秀雄
78話 死斗! 海底1万メートル	松下幹夫	
79話 奪われたガッチャマン情報	徳増正彦	
	陶山智	
80話 よみがえれ! ブーメラン	柳川茂	西牧秀雄
	陶山智	
81話 ギャラクター島の決斗	久保田圭司	鳥海永行
82話 三日月サンゴ礁を狙え!	陶山智	案納正美
83話 炎の決死圏	松下幹夫	西牧秀雄
84話 くもの巣鉄獣スモッグファイバー	徳増正彦	西牧秀雄
85話 G-4号はあいつだ	鳥海尽三	西牧秀雄
86話 ギャラクターの買占め作戦	久保田圭司	西牧秀雄
87話 三段合体鉄獣パトギラー	久保田圭司	案納正美
88話 鉄獣スネーク828	鳥海永行	鳥海永行
89話 三日月基地に罠を張れ	久保田圭司	西牧秀雄
90話 装甲鉄獣マタンガー	陶山智	鳥海永行
91話 三日月基地爆破計画完了	鳥海尽三	案納正美
92話 三日月基地の最後	鳥海永行	鳥海永行
	陶山智	
93話 逆襲! 地中魚雷作戦	久保田圭司	西牧秀雄
94話 電魔獣アングラー	小山高男	鳥海永行
95話 合体忍者大魔人	久保田圭司	鳥海永行
96話 ギャラクター本部に突入せよ	陶山智	西牧秀雄
97話 明日なき宇宙[注 55] 船レオナ3号	陶山智	西牧秀雄
98話 球形鉄獣グレーブボンバー	酒井あきよし	鳥海永行
99話 傷だらけのG-2号	久保田圭司	案納正美
100話 20年後のガッチャマン	陶山智	案納正美
101話 狙撃集団ヘビーコブラ	陶山智	西牧秀雄
102話 逆転! チェックメイトX	鳥海永行	鳥海永行
103話 死を賭けたG-2号	鳥海尽三	案納正美
104話 魔のブラックホール大作戦	陶山智	西牧秀雄
105話 地球消滅! 0002	鳥海永行	鳥海永行

- 【制作スタッフ】
- ・ 原作、キャラクターデザイン - 吉田竜夫
  - ・ 企画 - 鳥海尽三、陶山智
  - ・ 総監督 - 鳥海永行
  - ・ メカニックデザイン - 中村光毅、大河原邦男
  - ・ 作画監督 - 宮本貞雄
  - ・ 作画監督補佐 - 南家講二、池田茂之
  - ・ 原動画 - 須田正己、西城隆詞、白土武、佐々門信芳、川尻善昭、湖川滋 (現・湖川友謙)、二宮常雄、谷口守泰、村中博美、高橋資祐、塩山紀生、安彦良和、秋本治 他
  - ・ プロデューサー - 九里一平
  - ・ 制作担当 - 佐藤光雄、内間稔、近藤誠、鎌田正治
  - ・ 制作協力 - フジテレビ
  - ・ 制作 - 吉田竜夫、タツノコプロ
- 出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

<https://majingai.x.fc2.com>

# 1972年



# 科学忍者隊ガッチャマン

# 47年

【総裁X】声 - 田中信夫

三十数年前のカツェ誕生の日 に200万光年離れたアンドロメダ星雲の中にあるセレクトロ星からある命令を受けてやってきた、正体不明のギャクターの総支配者。本作では第21話で登場したヘンジンマン博士によって暴露されそうになるが、最後まで正体は不明であった。宇宙最高の頭脳を自称しており、次々と高度な科学力を背景にした作戦を立案するが、ことごとく科学忍者隊によって阻止される。本部からは動けないらしいが、姿を現して、ガッチャマンの手中に落ちたベルク・カツェの危機を救ったことがある（第71話、第102話）。最後は、故郷であるセレクトロ星が既に消滅していたことを知り、その真相を探るべくアンドロメダ星雲への帰還を決意し、ブラックホール作戦を遂行中だったカツェに見限りと礼の言葉を残し、忍者隊の眼前で光り輝く鉛筆型宇宙船で地球を去った。その正体は4年後の次作『ガッチャマンII』にて明らかになる。企画段階では「総裁Xは実在せず、ベルク・カツェが操っていた幻だった」という設定案があったが、アニメではわかりにくいということで採用されなかった。このアイデアは後に『タイムパトロール隊オタスケマン』で採用される。

【ベルク・カツェ】声 - 寺島幹夫（女性に変装した時の声は主に沢田敏子と此島愛子が担当） / 北沢洋（タツノコファイト）

ギャクターの「首領」で、自称「次期総裁」。総裁Xの忠実な配下として、ギャクターの実働部隊を指揮する。特技は変装・変身で女性に化けること。これはカツェ女性説の一因ともなった。他に、時に仕草や言葉尻が女性のような、濃い色の口紅を好んで付けている、感情の起伏が激しくヒステリー、等が挙げられた。彼の正体を探るのも番組の伏線の1つであった。その正体は総裁Xによって、男女の双子として生まれるはずの二人の人間を掛け合わせた雌雄同体のミュータントである。ヒマラヤ山脈麓の寒村で生まれたが、幼少期は細胞が安定せず、ほぼ一年ごとに性別が入れ替わっていたため、奇異や嫌悪する人目を避け、隠れるように生きてきた。思春期が過ぎ、成長が安定した頃には自分の意思で性別を入れ替えることができるようになっていた。IQが280と相当に高いのも、二人分の脳細胞を持つから、という説明がなされている。望まぬ姿でこの世に生を受け、奇異の目や揶揄に晒され続けたために強い劣等感を抱き続けてきた。己の運命を受け入れるためには「自分は選ばれた特別な存在」と信じ、思い込み、それを肯定・証明する必要があった。その意思は正義ではなく悪の道に向けられ、悪の組織ギャクターの一員となり、類い稀な頭脳を用いて幹部に昇進。やがて首領の地位に就いた。「デブルスター」という円盤に乗り指揮を執る。概して作戦を立てたり、メカを考案したりする「軍師」的存在であり、作戦の実行は「隊長」と呼ばれるギャクター隊員の比較的優秀な者に担わせているが、初期には全く別の扮装をして自ら隊長として行動することもあった。第7話では骸骨怪人の扮装でカツェンベルヒと名乗り、第10話でも蟻怪人の扮装で（エンディングクレジットではベルク・カツェのまま）隊長として指揮を執るなどしている。第7話で自ら鞭を振るってロケットや飛行機を破壊したり、第16話でガッチャマンと取っ組み合いをしたり、第35話で乗っ取った国の大臣を宮殿の窓から投げ飛ばしたりするなど若干の格闘戦を演じたものの、その後は素手での格闘力は影を潜め、ガッチャマンに対してはほとんど無抵抗でやられてしまうようになる。逃げ足が早く、忍者隊も舌を巻いている（メカには必ずカツェ用の脱出ポッドがある）。ギャクター隊員を持ち駒・消耗品ぐらいにしか考えておらず、保身のためならためらいもなく切り捨てる。自らの生みの親である総裁Xの評価を異常なまでに気にしているが、作戦の失敗や失言などで総裁Xに叱責されることが多い。たまに褒められて有頂天になることもある。特に中盤以降になると、ギャクター隊員達との掛け合いが笑いをとる方向に進むようになり、シリアスな物語中でのコミカルさを演出していた。それでいてただの間抜けな悪役ではなく、前述のような生い立ちもあり、最終的に総裁Xに見捨てられ自らを滅す（最終話にて自身も知らなかった総裁Xの作戦により地球消滅が止められないと思い込んだ彼は、己が身を呪う発言をしながらマグマへとその身を投げ出す）シリアスなシーンも描かれる。名前の由来はドイツ語で「山 (Berg)」+「猫 (Katze)」(山猫そのものに相当するドイツ語の単語は Wildkatze)。出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

